

世界の バスケットリー × バスケットリーの 世界

森の民の知恵 ——バスケットリーの起源をさぐる

池谷 和信 いけや かずのぶ
民博人類文明誌研究部

植物資源を加工して作るバスケットリーは、地球上の緑のある、あらゆる場所でのその技術を確認することができる。バスケットリーはなぜ生まれたのか。その技術はどのようにして見いだされてきたのか。世界をまたに掛け、狩猟採集民の生活を追う研究者が、その謎に挑む。

アマゾンとアフリカの運搬具

南米・アマゾンの森でウーリーモンキーなど樹上の小動物をねらう吹き矢猟に同行した際に、ハンターの男性とともに二人の女性がついてきた。いったい何をしにくるのかと思っていたら、目的地に着くといっせいにわたしの腕より長い、大きな葉を集め始めた。わたしは、猟に同行してジャングルのなかにいたので、女性たちの行動をつぶさに見ることはできなかったが、帰るときになって驚いた。彼女たちは、集めた大きな葉を組み合わせて、直方体のかごを作っていたのだ。かごのなかには、その材料と同じ植物の葉が並べられている。集めた葉は集落にもち帰り、家の屋根材として利用するという。かごは葉を運ぶための運搬具だった。

当時わたしは、カラハリ砂漠における狩猟採集民サン个村で長期滞在を終えて、アマゾンの調査地に移動したばかりだった。サンの場合には、獲物の肉を運ぶ際に束ねるロープや女性が外出の際に

もち歩くバッグはすべて動物の皮をなめしたもので作られている。また、バッグには皮を細長くした紐がついている。素材をねじめることはあっても編むことはほとんど見られなかった。

カラハリは砂漠といってもサバンナなので、葉のついた樹木はあるが、人びとが植物を素材としてバッグやかごを作ることはほとんどない。小動物を捕獲する罟の材料の一部として、草本植物の繊維をとり出し束ねて、ねじってできる紐が使われる程度であった。

森の恵み、バスケットリー

東南アジアにおける森の民の村では、植物素材で編まれたものを各地で見られる機会があった。ある集落では、ひとりの男性が細長くしたラタンの樹皮を組み合わせて大きな敷物を作っていた。それは、縦が三メートルを超え、横は一メートルの大きさがあり、近くの農村で販売するために作っていた。

るのだそうだ。実際に、一枚の敷物が二頭の豚と交換されているのをわたしは見た。豚肉は、森の民の好物のひとつである。

一方で、定住を強いられ、植物を採取できるような森が周辺にない別の村でも、女性が植物素材で編んだバッグを作っていた。女性は、遠くの森で採取してきた樹皮を薄く裂いて、それをねじって紐を作る。そして、それをクロスして編み物のようにしていくのだ。編まれたバッグには、緑や茶色の樹液が塗られていて見た目が美しい。これを訪問者に販売するというのもうなずける。



アマゾンの先住民ワオラニが作る小さなかご ©Pete Oxford/Steve Bloom/amanaimages



右：薄く裂いた樹皮をねじった紐で編まれたタイのバッグ（個人蔵）
左：なめした動物の皮で作られたサンのバッグ（ボツワナ、H0204616）

はたして日本はどうであろうか。日本の山村ではどこでも、植物のつるや樹皮を使用したかごや袋を見つけることができた。とくにわたしは、新潟県の山中で山菜採りを生業としている男性に弟子入りしたことがあるので、ゼンマイを入れるバッグや「テンゴウ」とよばれる袋が印象に残っている。その袋に二〇キログラム近いゼンマイを詰め、足元に注意をしながら採集キャンプまで運んだことを思い出す。これらの袋類は、雪深い山村において冬のあいだに女性によって作られていた。日本は国土の大部分が森林におおわれているので、多様な植物を利用したバスケットリーの技術が、世界のなかで見てもよく発達してきたのであろう。

編む、組むの起源を考える

それでは、いつからどのような過程で人類は植



東南アジアの村で作られる、ラタンの樹皮を編んだ敷物（撮影：中井信介、2015年）



藁紐で編まれた「テンゴウ」。背中にかついで使用する（日本、H0131329）

物素材を編んだり組んだりして、バスケットリーの技術を作りあげてきたのであろうか。例えば、縄文時代の考古遺物として紐が残っているが、植物をどのように加工したのか、その方法を知ることが難しい。しかしながら、アマゾンのかごも東南アジアの敷物も日本の袋類にしても、その技術が伝播したというよりは、おのおのの自然環境に応じて、地域で独立して生まれたようにも思える。これらは、森の民の知恵のひとつであり、人類の創造力の大きさを見せてくれるものだ。

わたしたち人類は、約三〇万年前にアフリカのサバンナで誕生したという。当時は、動物の皮のほか、腱を糸のようにして束ねてねじめることで道具や装身具の材料に使用していた可能性が高い。その後、人類は豊かな森に移動して植物を利用するようになった。その結果、細やかに編まれたかごやバッグなどが各地で独自に生まれたのではないかとわたしは考えている。